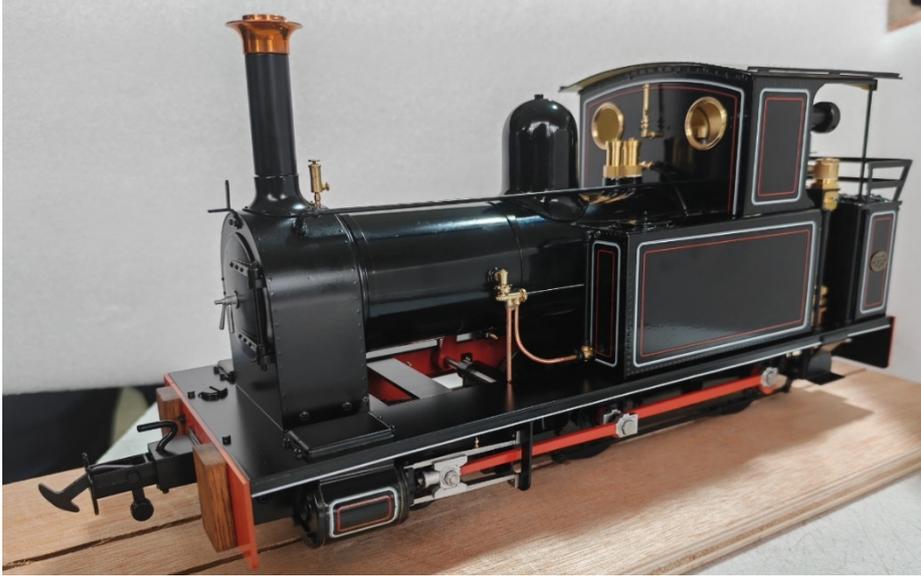


Merry Christmas and Happy New year .

It would be impossible with your level of ability to accurately translate the following Japanese into English.

少々衝撃的な事が先週、クリスマス前、年末に起こりましたので一言。先週号は、公開していませんでした。しかし、これが読める或るバカ者の、多分、チープな機械翻訳による、誤訳により Accucraft UK の連中は傷ついたそうです。要は、来年リリースする以下のモデルは「陳腐なモデルで買うに値しない」モデルだと、私が公言したと言うモノでした。んな事書く訳が無いでしょ！（怒）



我々には3つの命題があります。その一つは ASTER ブランドと Accucraft ブランド、その中でも UK 向けナローゲージモデルの格付けと言うモノです。当然ハイエンドは、ASTER ブランドモデルです。

ここで私が非常に気にしたのは、ダイハツの問題でした。開発期間を短くし、次から次へと新車を出せば、安い軽自動車でも利益は、出せる。と言う基本的な考えの下、自動車に、最も必要で、不可欠な“信頼性と安全性”と言う要素を疎かにしてしまった。結果、親会社のトヨタも同じ穴の貉とみられ、打撃を受けている。と言うのが、他山の石とすべき教訓ではな

いかと考えます。この姿勢が抜本的に改められない限り、ダイハツは、市場から抹殺されるでしょう。

ASTER は、対極的なモノ造りをしてきました。精密さに裏打ちされた信頼性の確保、その集大成は241P でした。結果。高額になり、真の意味でハイエンドなモデルでしたが、一方で、大赤字を作っただけの機械でもありました。リアルで精密な設計は、部品点数を異常に増やし、組み立てに“時計職人的な技量”を求める様になり、素人が、気軽に組み立てられて、運転を楽しめるモデルには出来ませんでした。しかし、このモデルをピークとして ASTERHOBBY ブランドのモデルが目指す方向性を示せたので。P2 では、誰もが確実に組立てられ、運転を楽しめる“機械”にすべく(時計職人的技量と知識を必要としない)、パイロットモデルの改良、試行錯誤を繰り返しています。(要は、出来る人、経験値が高く、仕組みが、理解できる人“だけ”向けには、しない。という事です)

しかし、結果的に、この様なモデルは、同じ仕組みや、駆動部品で構成され、設計された、誰もが気軽に楽しめるモデルよりは、高額になります。そう書いたつもりだったのですが？適当な、安物の翻訳ソフトでは、その意味を正確に訳せなかったのでしょうか。Accucraft ブランドのモデルのコンセプト。これは、安い訳では、無く。機関部品の設計の共通化で、同じ部品構成を持つ機械に仕上げる事で、より、開発期間を短く、リーズナブルなコストのモデルに仕上げる。と言うコンセプトのモノになります。“実物通り”のメカニズムの再現。では無く、より、確実に信頼性のある、汎用的で、簡略化されたボイラーや弁装置を全モデルで採用していると、云う事です。結果 ASTER ブランドよりは、安く出来ます。唯、核となる部品を全て、国産や精密機械の作り方(部品の加工公差は“ASTER 基準”)を採用して設計しているので、過去の Accucraft や他の中国・韓国などの模型屋的手法を弄した玩具“模型”とは、全く異なります。結果、信頼性と堅牢性、そして個体差が、過去や他社の比では無くなりました。その事実が、この価格帯を購入されるお客様に支持されているに過ぎません。走行途中で、部品がボロボロ取れて無くなったり、壊れたらハイ其れ迄よ、と言うモノでは無く、修理や調整が”効く“様な、設計が、外観の美しさを伴っている、それが今の Accucraft です。故に、今の Accucraft ブランドの、商品には、完成品にも組立図が添付されるようになっていきます。そしてシンプルな形状で、簡略化された部品構成なので、(飾り部品は、ダメですが)機能部品は、多少”腕に覚えが有る“お客様ならば、性能を向上させる部品の作成も可能にしています。それが新アキュクラフトの”設計思想“であり、弊社と Accucraft ブランドの、相違、格付けの差です。

二つ目は後継者の育成です。弊社模型の神髓や、Accucraft 模型の設計思想を受け継ぐ後継者の育成が無ければ、我々の死後、ASTER や Accucraft の模型は、死滅します。そう、バセットールークやビング、のような歴史的模型は、死後も、博物館的な

アイテムとして製品は残りますが、此のスピリットを継続させる事は、後継者の育成無くして無理なのです。しかし、我々の国内市場は“余りにも規模が小さく”此処を中心に“捉えて”では、継続は不可能でしょう。その上、国体として、如何なる行政(権力)からの規制も無い、自由な環境でないと、この趣味が生き永らえる事は不可能です。怪我をしたり、損をしても、自己責任が強く問われるのが趣味の世界なのです。従って、安全安心と言う“隠れ蓑”の下、規制される状態を“是”とし、長いものには“巻かれ”独自性は“出る杭”として、打たれる様な環境を相手にして、生き残る事は、不可能です。つい最近までは、この行政による監視の目は緩かったのですが、昨今の電子化の波を起源とする、結果をとつと出さないと、飽きられる国内の趣味が跋扈する環境下、国内顧客。決してグループには成らない、個人に遭い、偏らぬに見識を増やす事は不可能で、かなり無意味になりました。

しかし、世界を見回すと、人種的には、偏りが、ありますが、基本ニュートラルな自由主義の方が、顧客の中核を成しています。そう言った方の好みや、どこを注視しているか？を实地に触れ知らなければ、後継者も日本人故、井の中の蛙状態に、陥ります。一方で、お上(党)に逆らわず、諾々と、上の指示に従いノルマをこなす事を是とする環境下では、創造的な製品は生まれません。また一方で、お客様に気にいられるモノを精魂込めて作る、重箱の隅を突く様な“細心”さを求める製品を生み出す事は、真に自由な環境下では、無理でしょう。そこで後継者には自由な精神を持つ顧客を知る、この年寄の指導が、未だ必要な様です。が、ジジイ故、手を抜いて、もう大丈夫だろうと、アダムス以降の Accucraft 製品用部品の設計に関して放置していました。それは、慢心でした。ですから、この模型以降は、再び Accucraft ブランドの外観に関してコミットします。と書いたつもりなのですが？誤訳されたようです。このモデルでは、私ならば、気が付いて修正させた、この価格帯の模型を買う、顧客層の“ツボ”が分かりますので、その様なミスは冒しませんが、放置し、任せた私のミスでした。しかしリーズナブルに設計された仕組みの部分に関しては、良く出来ています。“肝”となる部分は、しっかり押さえています。見た目の問題点を修正すれば良いだけですので、彼等は、対応します。と書いたつもりでしたが？悪意に採るのですね？



最後にデジタルとアナログに関して私見を述べたいと思います。私は、この部分の相克に関して、若い世代に“問題は無い”と考えています。問題は、年寄り世代です。「久々に電話を掛けた」とか「近頃手紙が来なくなった」と言う、出だしの会話をよく昔からの弊社製品を持つ日本人顧客は、なされます。仕方が、無いのです。

来年封書は110円に値上げします。となると三千人の顧客に郵送でNLを送る場合。送り賃だけで三十三万円、これに封筒代、NLの印刷コスト、そして最も高い人件費を加算すれば、単純に1通千円の文書代が掛かります。そこへ、死亡や転居等で、返却された場合、1回に三百万円以上のコストを掛けて、幾らの無駄が出るのでしょうか？電子化した場合は、基本タダです。Mailも、居ないという通知だけで、費用はタダです。昨今与党の、脱税行為が、政治不信を呼んでいますし、マイナンバーカードは、保険証替わりと言う“嘘”も実態が見破られているでしょう。財務省としては、マイナンバーを全てのお金の出入に“紐付け”すれば、脱税は、やり辛くなります。デジタル化は、倒産しない団体の高給取りのルーティンワークや、無駄な人件費(税金)の温床も可視化し、無くす事も出来るでしょう。しかしデジタル化は、間口が高く、老人。特に人に物を教えてもらう事が、苦手な、過去、社会的な地位があった頑固な方は、その恩恵を理解できずにいます。(曰く、携帯が、メールが使えない！それは、年寄りの我儘で、そう云うご老人は、切り捨てられる“べき”でしょう)勿論、単純に切り捨てるのではなく、弱者に対するセーフティーネットは、必要ですが、基本、切り捨てるべきです。それが公平公正な世の中に繋がります。我々が日本型を見捨てたのは、その様な、考え方を持つ、ご老人方と、自分のやり方が未だ主流(デフェクトスタンダードだ)と考えているオタク達と、“さようなら”をする為です。

このビジネスは、サービス業でもありますが、サービスにはコストがかかり、その費用を理解した上で、負担できない人、高いと考える方は、“原則”単なる我儘な方、と切り捨てさせて頂きます。出ないと、この趣味は、消え去るのみです。ご理解ください。身の回りの物しか興味が無く、物の価値が分からない、ご遺族からは、安く遺品を買い叩きましょう。どうせ、価値が分からない、連中が相手、幾何かの提供で、喜ばれるはずですが、自由な古物市場や共同の運転環境の少ない、日本では、全く人気の無い、この趣味の中古品価格は維持できない。という現実の下。中古を安く買い叩き、楽しめるのは、唯一皆様のアドバンテージです、但し84年以前の商品、そしてディテール用の補修部品は、枯渇しています。又海外では入手可能な、便利なシール材でもあるアスベストが混ざっているグラファイトヤーンは、日本だけは禁制品=入手も提供もできません。故に81年以前の商品は修理できません。注意して下さい(日本の、行政による、趣味への規制は“狂っています”)ですが、弊社初号機(75年製)スクールズ等は、海外で、元気に、若者の手で復活しています。流石に海外型でも80年以前の余りディールに煩くない型は、子供が手が届く程度の価格に成ってます。海外の健全で自由な市場では、こうして若い後継者(顧客)が育っているのです。